

127

通関実務

平成 28 年度（第 50 回） 問題 8

A ☐☐☐

下表に掲げる 2 品目について、一の輸入（納税）申告書で申告し許可を受けたが、許可後において、下表のとおり課税標準額及び適用税率が誤っていることが判明し、修正申告をすることとなった。当該修正申告により納付すべき関税額を計算し、その額をマークしなさい。

| 品名 | 当初申告 | | 修正申告 | |
|----|-------------|-------|-------------|-------|
| | 課税標準額 | 適用税率 | 課税標準額 | 適用税率 |
| A | 99,520 円 | 9.6% | 255,700 円 | 10.5% |
| B | 1,288,010 円 | 13.4% | 1,432,900 円 | 23.8% |

0185500

修正申告により納付すべき関税額

・修正申告前と修正申告時の差額を計算する。

修正前 A 99,000 円 × 9.6% = 9,504 円
(千円未満切捨て)

B 1,288,000 円 × 13.4% = 172,592 円
(千円未満切捨て)

A + B = 182,096 円 → 182,000 円 ①
(百円未満切捨て)

修正後 A 255,000 円 × 10.5% = 26,775 円
(千円未満切捨て)

B 1,432,000 円 × 23.8% = 340,816 円
(千円未満切捨て)

A + B = 367,591 円 → 367,500 円 ②
(百円未満切捨て)

よって、

② - ①

367,500 円 - 182,000 円 = 185,500 円

外国貨物について輸入（納税）申告をし、輸入の許可を受けたが、当該許可後において下表 1 のとおり課税標準額及び適用税率に誤りがあることが判明し、下表 2 の経緯で関税法第 7 条の 14 の規定に基づき修正申告を行う場合に、当該修正申告により納付すべき関税額及び延滞税の額を計算し、これらの合計額をマークしなさい。なお、延滞税は、法定納期限の翌日から当該関税額を納付する日までの日数に応じ、年 2.6%（当該関税額の納期限の翌日から 2 月を経過する日後は年 8.9%）の割合を乗じ、1 年は 365 日として計算するものとする。

(表 1)

| | 課税標準額 | 適用税率 |
|------------------|--------------|-------|
| 修正申告前（輸入（納税）申告時） | 12,079,325 円 | 5.0% |
| 修正申告時 | 14,832,492 円 | 15.0% |

(表 2)

- ・ 令和元年 5 月 1 日 輸入（納税）申告の日、輸入の許可前における貨物の引取りの承認の日、貨物の引取りの日
- ・ 令和元年 5 月 31 日 「輸入許可前引取承認貨物に係る関税納付通知書」が発せられた日
- ・ 令和元年 6 月 7 日 当初の輸入（納税）申告に係る関税額の納付の日、輸入の許可の日
- ・ 令和元年 8 月 26 日 修正申告の日
- ・ 令和元年 8 月 30 日 修正申告に係る関税額の納付の日

(注) 上記の過程において、延滞税の免除事由に該当する事実はない。

(参考) 令和元年の暦

- ・ 令和元年 5 月 1 日から 5 月 31 日まで (31 日間)
- ・ 令和元年 6 月 1 日から 6 月 30 日まで (30 日間)
- ・ 令和元年 7 月 1 日から 7 月 31 日まで (31 日間)
- ・ 令和元年 8 月 1 日から 8 月 31 日まで (31 日間)

